

関連項目：教育活動プラン①

# 「ありがとう」の言葉を広め、互いに認め・認められる学校に

## 目的

本校の児童は、素直で明るく活発である反面、アンケート結果からは自尊感情があまり高くないことが分かりました。そこで、「ありがとう」の言葉を中心に人への感謝の気持ちを表現することが、自分もまわりの人も大切にする心を育てると考え、「ありがとう」を広げよう運動に取り組みました。

## 内容

### ● ありがとうの心を広げる運動

日常的にありがとうを言う場面を意識させ、いつでも言葉が出るようにその場その場で指導しています。プリントを配ってもらった時、困っているときに優しく声をかけてもらった時など、様々な場面で「ありがとう」の言葉が自然に出るような子どもを育てたいと思っています。

学期に1回、『ありがとう週間』を設け、各クラスで友だちにされてうれしかったことを発表し合っています。それを全校生にも紹介することで、クラスから全校にやさしさの輪が広がっています。教師も感謝の気持ちを意図的に伝えるように努めています。

児童会を中心に、「ありがとう」とともに「あったかことば」を広げる運動にも取り組み、全校が励まし合ったり認め合ったりできる校風を育てています。

### ● 自主的なあいさつ運動



東小あいさつ広げ隊

昨年までは、曜日を決めてそれぞれの学年が玄関であいさつをしていましたが、今年度は児童会で話し合い、「一週間に一回は参加しよう」ということで自主参加にしました。児童会の子どもたちが、毎日、お昼の放送で良いあいさつをしていた友だちの紹介してくれます。いろいろな視点であいさつの良さを教えてくれるので、「負けずにやろう」という気持ちになり、いろいろな学年の人が積極的に参加してくれます。本物のボランティアの心が育ちつつあります。

### ● 家庭との連携 『子どもをギュッと抱きしめる日』

毎月第1・3日曜日を「東小家庭の日」とし、子どもをギュッと抱きしめて一声かけるよう呼びかけています。「がんばってるね」「大好きだよ」などの言葉かけに喜ぶ子ども、お母さんの温かさや優しさを改めて感じる子どもの感想が返ってきています。

また、運動会の親子競技には親子の触れ合いが深まる種目を取り入れて、大いに盛り上がっています。



恥ずかしいけれど嬉しい親子競技



全校生のありがとうメール



あったかことばのよびかけ

## 成果

「ありがとう」の言葉を広げよう2年間取り組み、「ありがとうと言っている」と答える子どもが92%に増えました。また、友だちの良さを見つけたり、違った観点で良さを紹介したりする機会が増え、だれもが認めてもらえる雰囲気広がってきました。「自分にはいいところがある」「自分が好き」と答える子どもも77%から82%に増えました。

